

人への優しさと、きれいな地球へキャップでチャレンジ

2023 Vol.25

キャップ春秋



一般社団法人 日本キャップ協会

正会員
五十音順



一般社団法人
日本キャップ協会 会員一覧



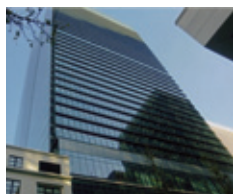
内山工業株式会社
〒105-0012
東京都港区芝大門2-1-16
芝大門MFビル3階
TEL 03-5472-7133

《東京支店



株式会社CSIジャパン
〒105-6027
東京都港区虎ノ門4-3-1
城山トラストタワー27階
TEL 03-6403-1516

《野木本部



大和製罐株式会社
〒100-7009
東京都千代田区丸の内
2-7-2 JPタワー9F
TEL 03-6212-9700

《本社



東京王冠株式会社
〒300-1217
茨城県牛久市さくら台
4-12-1
TEL 029-872-2683

《牛久工場



株式会社中川商店
〒553-0002
大阪市福島区鷺洲1丁目
9番10号
TEL 06-6451-0236

《伊丹工場



日本クロージャー株式会社
〒141-0022
東京都品川区東五反田2-18-1
大崎フォレストビルディング18F
TEL 03-4514-2150

《本社



日本山村硝子株式会社
〒662-8580
兵庫県尼崎市西向島町
15番1
TEL 06-4300-6340

《宇都宮工場



野田クラウン工業株式会社
〒306-0626
茨城県坂東市小山2051
TEL 0297-38-1881

《本社



久金属工業株式会社
〒557-0061
大阪市西成区北津守
3-8-31
TEL 06-6562-0121(代)

《滋賀工場



株式会社寛冠
〒114-0003
東京都北区豊島1-39-8
TEL 03-3911-3986

《益子工場



三笠産業株式会社
〒635-0817
奈良県北葛城郡広陵町
寺戸27番地
TEL 0745-56-5581

《本社



アルテミラ製缶株式会社
〒112-8525
東京都文京区後楽1-4-25
日教販ビル8F
TEL 03-3868-7470

《富士小山工場

賛助会員
五十音順



アロン化成株式会社
エラストマー事業部
〒105-0003
東京都港区西新橋二丁目8番6号
住友不動産ビル8階
TEL 03-3502-1447

《本社



関西ペイント株式会社
〒254-0016
神奈川県平塚市東八幡
4-17-1
TEL 0463-27-1225

《開発センター



キリンホールディングス株式会社
R&D本部 パッケージイノベーション研究所
〒230-8628
神奈川県横浜市鶴見区生麦1-17-1
テクノビレッジセンター
TEL 045-521-4919

《パッケージイノベーション研究所



会長就任挨拶

株式会社CSIジャパン

代表取締役社長 保本 亘

小さなキャップには、重要な役割が課せられています。密封性・開栓性・リシール機能により、食品・飲料の安全と安心を保証しなければなりません。それらに加え、サステナビリティの見地からは軽量化・リサイクル性が重要な課題となりつつあります。

一方で、キャップ業界を取り巻く経営環境は、現在進行形で変化しています。リデュース・リユース・リサイクルの3Rニーズは益々拡大し、原材料コスト、エネルギーコスト、サプライチェーンコストの上昇が経営環境を悪化させています。コロナ禍、3年間のトンネルの先によりやく出口が見えつつありますが、市場の需要は

まだ回復途上です。

コロナ禍の3年間、キャップ業界を取り巻く環境は大きく変化しました。今後3年間、どのような予期せぬ変化があるのか、想像が付きません。ただ一つ予想出来る事は、次の3年間も変化は加速し、コロナ前に戻ることはないでしょう。

中島前会長の後任として会長に選任され、身の引き締まる思いです。これからの変化に対応してお客様・社会の要請に応えるべく、会員各位の力を合わせて、キャップ業界の健全な発展で社会に貢献できればと思います。

Contents

キャップ春秋 目次

2023 Vol.25

会長就任挨拶	1
日本キャップ協会定時社員総会・定時理事会報告	2 -
技術委員会開催報告	4 -
日本キャップ協会寄稿	6 -
トピックス	10 -
副会長就任挨拶	12
編集後記	13
JCA会員名簿	14

表紙題字

白澤 竹峰 氏

(有)ATAGO IP勤務、竹峰書道教室主宰や産経国際書会無鑑査等幅広く活躍中

2022年度定時社員総会及び定時理事会開催

2022年6月に定時社員総会及び定時理事会が開催され、2021年度の事業報告・収支決算、2022年度の事業計画・収支予算案、役員選任、会長・副会長の選定が決議され承認可決されました。

(以下、議案書より抜粋。一部加筆しております。)

1. 2022年度当協会を取り巻く状況

新型コロナウイルスの感染状況は依然として先行き不透明感が強いものの、今年のゴールデンウィークは3年ぶりに行動制限がなく人流が活発化し、個人消費は持ち直しの動きが見られ始めました。

また、政府は入国者数の上限を緩和する検討に入っており、早ければ6月中にも実施される予定で、将来的にはインバウンド需要にも期待が高まります。

しかしながら、ロシアのウクライナ侵攻を受けた資源価格の上昇や中国での新型コロナウイルスの感染再拡大に伴うロックダウンなどを背景にしたサプライチェーンの停滞等が日本経済に与える影響が懸念されます。

特に、電気、ガソリン等のエネルギーや食品といった生活必需品の物価上昇などで家計の負担が増し、消費回復の先行きにも不透明感が残ります。

さて、本年4月1日より「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行されました。同法は、プラスチック製品の設計・生産・消費・廃棄に至るまでのライフサイクルに関わる主体によるプラスチック資源の循環に向けた取り組みの促進を目指しています。

欧州では、既に資源を循環させることで新たな市場や産業を創出し、雇用拡大にもつなげることを狙った資源循環型経済が進められています。EUの循環型経済行動計画（2020年3月発表）では、包装や建設資材、自動車といった主要なプラスチックが使われている製品について、再生材料の含有量の必須要件を提案するとしています。

日本もプラスチック新法によって、循環型経済への移行に向けた一步を踏み出しましたが、世界各国でプラスチック削減の動きが進み、今後、日本でも使い捨てのプラスチック容器包装にEUのような規制が始まる可能性も考えられます。

当協会ではこれまでプラスチック新法や資源循環戦略、ポジティブリスト等に関する幅広い情報を収集し、技術委員会にて関連するテーマを取り上げてきましたが、今後も環境関連情報を軸に、キャップ業界に役立つ情報を提供してまいります。

この他、会報誌キャップ春秋の発行、ホームページを活用した情報の提供や各種お問い合わせへの対応、及び、大崎フォレストビルディングのプラスチックキャップ回収窓口などの活動を引き続き行ってまいります。

尚、当協会の事業の実施に当たりましては、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染予防に万全の注意を払い執り行う事とさせていただきますので、ご理解ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

2. 事業活動計画

2-1. 技術委員会の活動について

定例技術委員会は従来通り2か月に一度、奇数月に開催する予定です。

定例会の他、今期も引き続きワーキンググループを適宜開催し、環境対応等に関する諸課題について検討してまいります。

特に近年は清涼飲料PET商品の資源循環への取り組みが加速しております。

企業間（飲料メーカー、流通、廃棄物処理業者等）や自治体等との連携による自主回収の仕組み作りや実証実験、水平リサイクルなど環境に関する最新の情報収集に注力し、協会として取り組むべき今後の方向性について議論していきたいと考えます。

また、前期の活動でも触れましたが、現在、薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会器具・容器包装部会にて

ポジティブリストの改編と物質の再整理等に関する検討が進められています。引き続き関係省庁の情報を注視しながら、業界団体との直接的な接点を増やし、適切な対応を検討してまいります。

2-2. 定時社員総会・定時理事会の開催

2-3. 見学会の開催

コロナ禍の影響により2020年、2021年と見学会が開催できませんでしたが、本年度の見学会は環境学習を兼ね自然共生型の清涼飲料水充填工場の見学を10月に予定しています。

→ コロナウイルスの感染状況を鑑み延期となりました。

2-4. 懇親ゴルフ大会の開催

見学会同様2年間開催できておりませんが、本年度は11月22日に予定しています。

→ 懇親ゴルフとして開催予定でしたが中止となりました。

2-5. 会報誌キャップ春秋の発行

2022年度における技術委員会での検討内容、その他当協会の活動内容などを掲載する予定です。また、今年度よりコスト削減とペーパーレス化推進の為、会員企業の皆様へPDFをメール送信させて頂く予定です。

2-6. ホームページを活用して情報発信

役員や会員情報などの変更事項、及び2022年度事業計画、キャップ春秋の掲載などを行います。

2-7. 大崎フォレストビルディングのプラスチックキャップ回収窓口

本年度も大崎フォレストビルディングでの回収窓口を継続します。

2-8. 協会への問い合わせ対応

前期は42件のお問い合わせを頂きました。引き続き真摯に対応させて頂く所存です。

3. 2022年度 収支予算

前期繰越金	5,906,027円
当期収入合計	5,056,068円
当期支出合計	5,843,786円
次期繰越金	5,118,309円

4. 2022年度役員

会 長	保木本 亘 株式会社CSIジャパン 代表取締役社長
副会長	桐 基晃 日本クロージャー株式会社 代表取締役社長
理 事	野部 浩 株式会社寶 冠 代表取締役社長
理 事	久 義裕 久金属工業株式会社 代表取締役社長
理 事	西川 政和 東京王冠株式会社 代表取締役社長
理 事	山村 昇 日本山村硝子株式会社 取締役執行役員プラスチックカンパニー社長
理 事	林田 大地 三笠産業株式会社 代表取締役社長
監 事	谷口 真一 日本クロージャー株式会社 取締役常務執行役員

技術委員会開催報告

2022年度技術委員会の主要テーマ

- ①環境対応ワーキンググループの活動
- ②プラスチック資源循環戦略について
- ③ポジティブリスト見直し動向について
- ④容器包装・環境関連に関する情報共有

●第1回技術委員会：5月

- ・環境対応ワーキンググループ（以下WG）について
 - ①リシール缶用キャップWG ～ LCAデータ集計結果
 - ②各社の環境活動や取組みについて
- ・ポジティブリスト見直し動向に関する質疑応答
～ 食品接触材料安全センター 石動氏
- ・全清飲異物低減プロジェクト実証実験報告について

●第2回技術委員会：7月

- ・環境省 「プラスチックの資源循環に関する先進的モデル形成支援事業の結果」について
- ・技術委員会見学会候補先選定について
- ・環境関連情報、清涼飲料市場の直近情報について

●第3回技術委員会：9月

- ・環境対応WG 進捗状況報告
リシール缶用キャップLCAデータ最終報告
～ WIC社 林氏
- ・環境省 「循環型社会形成推進基本計画」について
- ・全清飲 清涼飲料容器一元回収実証実験開始について
- ・全国容器循環協議会設立について
- ・清涼飲料市場の販売動向について

●第4回技術委員会：11月

- ・厚労省・食品用容器包装の規格に関するWGについて
- ・一般社団法人日本キャップ野球協会について
- ・環境省 自動販売機横リサイクルボックスへの効果的な異物混入防止に関する実証事業の実施について

●第5回技術委員会：1月

- ・厚労省・食品用容器包装の規格に関するWGについて
- ・内閣府 「プラスチックごみ問題に関する世論調査」の結果について
- ・全清飲 海洋プラごみ流出防止に係る実証事業について
- ・環境関連情報、清涼飲料市場の直近情報について

●第6回技術委員会：3月開催予定



技術委員会委員（五十音順）

アルテミラ株式会社 グループ安全環境部 部長	小崎 直樹	内山工業株式会社 執行役員コルク & FPM事業部長	澤 達也
技術委員長 株式会社CSIジャパン 常務執行役員開発本部長	毛利 彰宏	大和製罐株式会社 品質保証部環境課長	鈴木 久志
東京王冠株式会社 取締役工場長	須郷 好寿	日本クロージャー株式会社 環境部長	橋本 勝己
日本山村硝子株式会社 プラスチックカンパニー 生産技術部課長	川村 伸生	野田クラウン工業株式会社 代表取締役社長	杉崎 真弥
久金属工業株式会社 シニアアドバイザー	川島 秀弘	株式会社 寶 冠 営業部	野部 浩一
三笠産業株式会社 顧問	森 淳生	日本キャップ協会事務局 事務局長	中村 幸弓

drinktec 2022報告， サステイナビリティと日本

報告：ビバリッジ ジャパン編集発行人・埴 義彦
(問い合わせ先：yoshihiko@beverage-j.co.jp)

本稿はBeverage JapanのNo490（2022年11月号）、No491（2022年12月号）で掲載したdrinktecレポートを一部抜粋，加筆した。さらに，同誌では掲載していないクロージャー関係にスポットを当てて報告する。

飲料産業最大の展示会であるdrinktecが，9月12日から16日までドイツ・ミュンヘン見本市会場で開催された。

コロナ禍で2021年開催が1年延期されたうえ，世界的なパンデミックが継続していることから，今回の出展・来場者はともに難しい判断を迫られたであろう。それでも世界55カ国から合計1,002社が出展し，世界169カ国から5万人の来場者を集めた。主催者であるメッセ・ミュンヘンによれば，2022年9月7日に日本への入国規制が緩和されたことを受け，日本からは当初の予想を上回る700名超が来場したという。



drinktecは世界が厳しい課題に直面していても多くの来場者を集め，飲料産業の実践的なプラットフォームとなっていることを示したと主催者は語った。出展者の65%，来場者の70%以上がドイツ国外からで，そのうち40%を米国，メキシコ，ブラジル，南アフリカ，日本，インドなどが占めた。

一方，コロナ禍が契機となった世界的な混乱は出展各社に大きな影響を与えた。エネルギー，サステイナビリティ，労働力不足といった課題は，過去3年間で急速に世界中を覆い，今や何よりも優先される緊急課題となっている。それだけに今回のdrinktecは，出展者と来場者がこれらの課題の解決に向けて議論し，またポストコロナの課題を議論する場となった。

●drinktec 2022の特徴

今回のdrinktecは、“いま世界で起きている課題への対応”が焦点だった。同展で最大の出展規模を誇るKronesは、「海洋プラスチックゴミ」「気候変動」「食品ゴミの増加」「食品の3分の1が廃棄」「食品産業のエネルギー消費量」「家畜と人類の食品消費」という課題を示した。

●サステナビリティとSDGs

日本で金科玉条のように唱えられているSDGsはdrinktecでは“greenwashing”と一蹴されてしまい、本質の議論を求められた。その本質とは以下の“E2S”である。

- 1) Economy
- 2) Ecology
- 3) Society

企業には、これらの視点に基づいた事業活動と点検が求められている。日本のガラパゴス化は今に始まったことではないが、欧州が絶対でもない。それでもサステナビリティの本質を正面から見つめ、事業を行なうことに洋の東西はない。

●脱プラスチック包装への提案

廃プラスチックやマイクロプラスチックによる海洋汚染に端を発した脱プラスチック化のうねりは、シングルユース（使い捨て）プラスチックの削減というトレンドを作り出しつつある。その一つがプラスチックから紙への移行で、特に外包装のシュリンクフィルムの代替や、プラスチック製マルチパックの紙化が提案されている。

写真は板紙または段ボール紙を使ったマルチパックの提案事例だ。



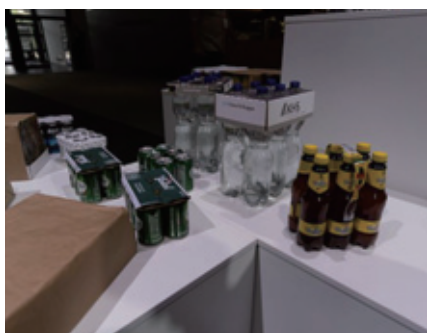
WestRock



Graphic Packaging International



Krones



KHS

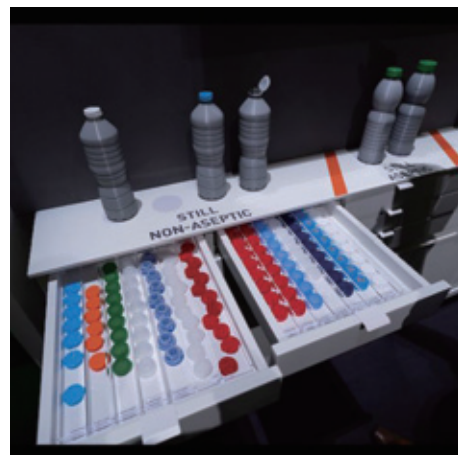


SMI

●クロージャーの提案

クロージャーに関する話題は、2024年にEU域内での義務化が予定されているTethered Caps（テザードキャップ）である。drinktecでもテザードキャップに関する展示がなされており、以下は代表的な事例だ。このテザードキャップは提案が盛んだが、市場導入は鈍い。その理由の一つは、ネックフィニッシュの多様化といえるだろう。

（写真はSidelの展示）



また、義務化が2024年であることも理由だ。実際にミュンヘンの店頭で見かけたテザードキャップは、ディスカウントスーパーEDEKAのプライベートブランドの炭酸水だった。



このほか、同展ではPET製クロージャーの試作品が展示された。プラスチックのモノマテリアル化が発想原点で、容器全体をPET樹脂に統一すれば分別が不要でリサイクルしやすくなる可能性がある、とする。

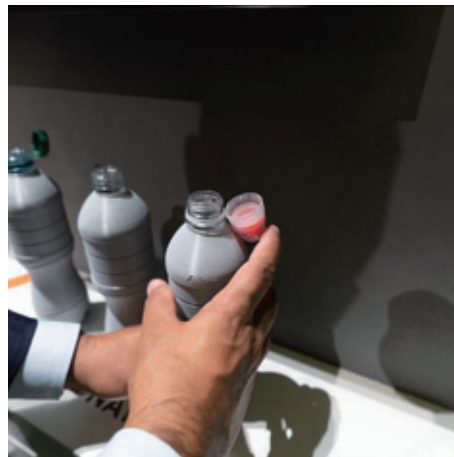
▶ Husky は、1881 から 26/22 規格への変更（写真左）による軽量化やテザードキャップのサンプルを展示したほか、PET 樹脂製のスクリュキャップのコンセプトモデルを展示した（写真右）。



▶SACMI IMOLAはテザードキャップの製造に対応したスクリーキャップの高速コンプレッション成形ラインを展示し、成形実演した（写真左）。またPET樹脂製キャップのサンプルを展示した（写真右）。



▶Sidelは、PETボトルネックの軽量化の歴史（写真左）、テザード仕様のスポーツキャップ（写真右）、数々のネックフィニッシュを示した。



●drinktecを通じた欧州理解と日本の可能性

コロナ禍を経て取材した欧州はウクライナ戦争の最前線で、政治問題や経済問題が緊急の課題ということに気づく。人々の関心は“いま、そこにある危機”であり、燃料費や物価の高騰にみまわれていることだ。drinktecシーズンには“Heat or Meat”といわれた。もちろん環境問題は重要だが、生活が最も切実な問題であることに異論はない。

drinktecは出展者の65%、来場者の70%以上がドイツ国外だったが、同展が欧州事情を端的に示していた。次回開催である2025年秋には日本企業が現地で出展し、世界各国の産業人と飲料産業の未来を大いに議論してほしいと切に願っている。

●SDGs Week EXPO 2022



SDGs Week EXPOは、環境総合展である「エコプロ」、持続可能な社会資本整備をテーマとする「社会インフラテック」、気象災害への適応を主テーマとする「自然災害対策展」など5つの展示会が2022年12月7日から9日までの3日間東京ビッグサイトで開催され、社会課題解決のための製品やサービス、企業の取り組みなどが展示されていました。

今回のエコプロは、持続可能な社会の実現に向け社会問題の解決を目指す展示会として、「海洋プラスチックごみ対策パビリオン」「快適睡眠展」などの企画が展開されていました。

企画展の中で注目したのは「昆虫ビジネス～昆虫食からバイオミメティクスまで～」です。

世界的な人口増加や気候変動、水不足に伴う食糧不足への解決策として、近年「昆虫食」が脚光を浴びています。中でもコオロギは、たんぱく質をはじめとする栄養素が豊富で環境負荷も少ないことから国連食糧農業機関（FAO）も推奨している食品です。

（今年1月の日経新聞の記事によると、NTT東日本はICTなどを活用し、食用コオロギなど昆虫食の生産支援を2025年にも商用化する計画があるとの事）

また、生物からヒントを得て科学技術に応用する「バイオミメティクス（生物模倣）」にも、昆虫は活用されているとのことでした。

今回のエコプロは2023年12月6日から8日の開催予定です。



●第7回ドリンク ジャパン（飲料・液状食品 開発・製造展）

2022年12月7日～9日まで幕張メッセで第7回ドリンク ジャパンが開催されました。

ドリンク ジャパンは、飲料や醸造、液状食品の開発・製造に特化した商談展です。主催者の発表によると、同時開催展との合計で、17,215人の来場者となり前年を上回った模様です。

第8回ドリンク ジャパンは、2023年12月6日～8日までの3日間、展示規模を1.5倍に拡大し、東京ビッグサイト南ホールで開催する予定です。



●「TOKYO PACK 2022 –2022東京国際包装展–」

TOKYO PACK 2022 が10月12日～14日の3日間、東京ビッグサイトで開催されました。

「TOKYO PACK」は包装資材、包装機械から包材加工機械、食品機械、関連機器類、環境対応機材、物流機器類を中心に、生産、物流、流通、販売、消費、廃棄・リサイクルに至るまでの様々な分野を網羅したアジア最大級の包装総合展です。

今回は「新時代パッケージ ここに集う！—未来のために機能進化と使命—」をメインテーマとし、出展社数は406社、来場登録者数は53,466人だった模様です。

会場では、パッケージングトレンドについて会期中70セッション以上のセミナーを実施。

また、オンラインでも視聴可能な、「出展製品動画ギャラリー」「出展社ニュースリリースページ」「TOKYO PACK HYBRID」の3つのサービスも提供されました。

次回の東京パックは2024年10月 東京ビッグサイト 東ホールにて開催の予定です。



副会長就任挨拶



日本クロージャー株式会社

代表取締役社長 桐 基晃

昨年6月の総会にて理事並び副会長に選任いただきました、日本クロージャー株式会社の桐 基晃でございます。

平素より、会員企業の皆様には大変お世話になっており、心より御礼申し上げます。

さて、現在私どもの業界は、コロナ禍の収束が見えない中、原材料・エネルギーの高騰の影響を受け、かつてないほどの厳しい事業環境に直面しております。

会員企業の皆様におかれましても、そのご苦労はいかほどかと拝察いたします。

さらには、社会での環境対応への要望が高まるとともに、包装資材としてキャップ・クロージャーが環境に対してどうあるべきか、企業としてどう対応すべきかが問われはじめている現状があります。

ただこの環境問題に関しては、一企業だけでの対応には限界があります。

現在、協会の技術委員会でリサイクルに関する情報交換や意見交換などを進めておりますが、いまだ業界としての動きにまで昇華するには至っておりません。

今後キャップの環境対応を進めていくためには、必然的に業界としてのまとまりが必要となります。それを議論する場として、本協会が今よりもさらに有効に機能することが理想であると考えています。

しかし、今のままではなかなか難しいのも現実ではないかと考えておりますので、どうしていくべきかも含め、皆様と様々なお話をさせていただければと思っております。

つきましては今後とも、副会長として保木本会長を支え、協会ならびに業界の発展に精一杯取り組んでいく所存ですので、何卒よろしくお願いいたします。

3年にわたる新型コロナウイルスの影響で外国人観光客数は大きく減少していましたが、円安や水際対策が段階的に緩和された事などにより、街中で外国人旅行者の姿を見かける機会が増えてきました。

こうした中、日本政府は5月8日から新型コロナウイルス感染症を現在の2類相当から5類へ移行することを正式決定しました。今後は法的措置や行政の対応が殆どなくなり、新しい生活様式は組織や個人の判断に委ねられる場面が増えそうです。

さて、今号では6月開催の理事会において選定された会長、副会長のご挨拶をはじめ、ビバリッジ ジャパン社社長よりご寄稿頂き、ドイツで開催されたdrinktec2022のレポートを掲載させて頂きました。

また、キャップ春秋はコストダウンとペーパーレス化推進の観点から今年度よりPDFをメール送信させて頂く事になりました。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

末尾になりましたが、今回ご協力頂きました皆様には心より感謝申し上げます。 (事務局 中村)

日本キャップ協会事務局ご案内



プリンストン赤坂

所在地 〒107-0052 東京都港区赤坂6丁目4番18号
プリンストン赤坂1002号室
TEL 03-6426-5675 FAX 03-6426-5635
アクセス 東京メトロ千代田線「赤坂」駅6番出口より徒歩3分

表紙写真 出雲大社 神楽殿

現在の神楽殿は1981年に造営されました。ここでは、祭典、祈願、結婚式などが執り行われています。正面には日本最大級の大注連縄（おおしめなわ）があり、その長さは約13メートル、重さは5.2トンに及びます。この大注連縄は数年に一度、新しい注連縄へかけ替えられるそうです。





一般社団法人日本キャップ協会役員・担当者名簿（2023年1月版）五十音順

No.	正/賛助	社 名/事業部	協会役員/協会担当	協会担当住所	協会担当TEL
1	(正)	内山工業株式会社	☆◇ 澤 達也(執行役員コルク&FPM事業部長)	〒105-0012 東京都港区芝大門2丁目1-16 芝大門MFビル3F	03-5472-7133
2	(正)	株式会社CSI ジャパン	会長 保木本 亘(代表取締役社長)	〒105-6027 東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー 27階	03-6403-1516
			☆ 大重 輝武(常務執行役員)	〒329-0114 栃木県下都賀郡野木町野木148	0280-56-2345
			◇ 毛利 彰宏(常務執行役員・開発本部長)		
3	(正)	大和製罐株式会社	☆ 宮垣 誠(マーケティング部 企画調査課 課長) ◇ 鈴木 久志(品質保証部環境課長)	〒100-7009 東京都千代田区丸の内2-7-2JPタワー9F	03-6212-9700
4	(正)	東京王冠株式会社	理事 西川 政和(代表取締役社長) ☆◇ 須郷 好寿(取締役工場長)	〒300-1217 茨城県牛久市さくら台4丁目12-1	029-872-2683
5	(正)	株式会社中川商店	☆◇ 中川 敦雄(代表取締役社長)	〒664-0842 兵庫県伊丹市森本1-151	072-764-7000
6	(正)	日本クロージャー株式会社	副会長 桐 基晃(代表取締役社長)	〒141-0022 東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング18F	03-4514-2150
			監事 谷口 真一(取締役常務執行役員)		
			☆ 新納 義継(総務部長)	〒254-0021 神奈川県平塚市長瀬2-12	0463-22-8618
			◇ 橋本 勝巳(環境部長)		
7	(正)	日本山村硝子株式会社 プラスチックカンパニー	理事 山村 昇(取締役執行役員 プラスチックカンパニー社長)	〒160-0023 東京都新宿区西新宿6丁目14-1 新宿グリーンタワービル	03-3349-7225
			☆ 赤嶺 有京(営業部東京営業課課長)	〒660-8580 兵庫県尼崎市西向島町15-1	03-3349-7257
			◇ 川村 伸生(生産技術部課長)		06-4300-6336
8	(正)	野田クラウン工業株式会社	☆◇ 杉崎 真弥(代表取締役社長)	〒306-0626 茨城県坂東市小山2051	0297-38-1881
9	(正)	久金属工業株式会社	理事 久 義裕(代表取締役社長)	〒557-0061 大阪市西成区北津守3丁目8-31	06-6562-0121
			☆◇ 川島 秀弘(シニアアドバイザー)	〒528-0064 滋賀県甲賀市水口町伴中山220番地	0748-62-3315
10	(正)	株式会社 寶 冠	理事 野部 浩(代表取締役社長) ☆◇ 野部 浩一(営業部)	〒114-0003 東京都北区豊島1丁目39-8	03-3911-3986
11	(正)	三笠産業株式会社	理事 林田 大地(代表取締役社長) ☆◇ 森 淳生(製品開発部顧問)	〒635-0817 奈良県北葛城郡広陵町寺戸27番地	0745-56-5581
12	(正)	アルテミラ製缶株式会社	☆◇ 小崎 直樹(部長)	〒112-8525 東京都文京区後楽1-4-25 日教販ビル8F	03-3868-7471
13	(賛)	アロン化成株式会社 エラストマー事業部	☆ 有明 敏昌(企画グループ グループリーダー)	〒105-0003 東京都港区西新橋二丁目8番6号 住友不動産ビル8階	03-3502-1447
14	(賛)	関西ペイント販売株式会社 工業塗料販売本部	☆ 里坊 拓美(第1営業部 CANグループ 所長)	〒144-0045 東京都大田区南六郷3丁目12-1	03-6758-0880
15	(賛)	キリンホールディングス株式会社 R&D本部 パッケージソリューション 研究所	☆ 西島 孝紀(主任研究員)	〒230-8628 神奈川県横浜市鶴見区生麦1丁目17-1 テクノビレッジセンター3F	045-521-4919
16	(賛)	株式会社神戸製鋼所	☆ 生田 尚之(鉄鋼アルミ事業部門 アルミ板ユニット 容器材営業部 第二営業室室長)	〒141-8688 東京都品川区北品川5丁目9-12	03-5739-5067
17	(賛)	堺アルミ株式会社	☆ 田中 茂樹(営業部 板製品グループ グループリーダー)	〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町8-6	03-5843-6055
18	(賛)	JFEスチール株式会社	☆ 宮崎 健太(缶用鋼板営業部 缶用鋼板室 課長)	〒100-0011 東京都千代田区内幸町2丁目2-3 日比谷国際ビル	03-3597-3974
19	(賛)	一般財団法人食品環境検査協会	☆ 川口 徹(営業開発部)	〒136-0082 東京都江東区新木場2丁目10-3	03-3522-2338
20	(賛)	大日精化工業株式会社	☆ 関根 孝利(合樹・着材第1事業部企画室 室長)	〒103-8383 東京都中央区日本橋馬喰町1丁目7-6	03-3662-7188
21	(賛)	DICグラフィックス株式会社	☆ 鈴木 正則(東京リキッドカラー第四営業グループ 営業四課課長)	〒103-8233 東京都中央区日本橋3丁目7番20号 ディーアイシービル	03-6733-5064
22	(賛)	株式会社トーモク 岩機工場	☆ 藤盛 崇之(営業部第四課)	〒339-0001 埼玉県さいたま市岩槻区鹿室839-1	048-794-3111
23	(賛)	東洋鋼板株式会社	☆ 塚本 尚文(缶材営業部缶材グループリーダー)	〒141-0022 東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング19F	03-4531-6850
24	(賛)	トーヨーケム株式会社	☆ 寺内 努(包装・工業材営業本部 営業1部 営業2課 課長)	〒104-8379 東京都中央区京橋2丁目2-1 京橋エドグラン	03-3272-0856
25	(賛)	日本トーカンパッケージ株式会社	☆ 武部 敬(段ボール営業本部 営業第二部 部長)	〒141-0022 東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング16F	03-4514-2139
26	(賛)	日本ポリエチレン株式会社	☆ 東 豊敦(産業資材営業本部 射出押出グループ グループマネージャー)	〒100-8251 東京都千代田区丸の内1-1-1 パレスビル	03-6748-7198
27	(賛)	日本ポリプロ株式会社	☆ 加藤 岳(営業本部 生活産業材料部 食品医療グループグループマネージャー)	〒100-8251 東京都千代田区丸の内1-1-1 パレスビル	03-6748-7190
28	(賛)	M A アルミニウム株式会社	☆ 鈴木 隆行(圧延事業部営業部 副部長)	〒105-8546 東京都港区芝2丁目3-3 JRE芝二丁目大門ビル	03-3769-0165
29	(賛)	株式会社UACJ	☆ 清水 真知子(板事業本部 缶材営業部長)	〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目7-2 東京サンケイビル	03-6202-3328

※☆印は協会担当者 ◇印は協会技術委員

賛助会員
五十音順



一般社団法人
日本キャップ協会 会員一覧



株式会社神戸製鋼所
鉄鋼アルミ事業部門
〒141-8688
東京都品川区北品川
5-9-12

《真岡製造所 TEL 03-5739-5067



堺アルミ株式会社
東京オフィス
〒103-0024
東京都中央区日本橋
小舟町8-6
TEL 03-5843-6055



一般財団法人食品環境検査協会
〒136-0082
東京都江東区新木場
2-10-3
TEL 03-3522-2338

《東京事業所



《スチール研究所

JFEスチール株式会社
〒100-0011
東京都千代田区内幸町
2-2-3 日比谷国際ビル
TEL 03-3597-3974



大日精化工業株式会社
〒103-8383
東京都中央区日本橋
馬喰町1-7-6
TEL 03-3662-7188

《東海製造事業所



DICグラフィックス株式会社
東京リキッドカラー第四営業部
〒103-8233
東京都中央区日本橋
3-7-20 ディーアイシービル
TEL 03-6733-5064



東洋鋼板株式会社
〒141-0022
東京都品川区五反田2-18-1
大崎フォレストビルディング19F
TEL 03-4531-6850

《下松工場



《岩槻工場

株式会社トーモク
関東営業部
〒339-0001
埼玉県さいたま市岩槻区
鹿室839-1
TEL 048-794-3111



トーヨーケム株式会社
〒104-8379
東京都中央区京橋2-2-1
京橋エドグラン
TEL 03-3272-0856

《川越事業所



《本社

日本トカンパッケージ株式会社
〒141-0022
東京都品川区東五反田2-18-1
大崎フォレストビルディング16F
TEL 03-4514-2130



《四日市工場

日本ポリエチレン株式会社
〒100-8251
東京都千代田区丸の内
1-1-1 パレスビル
TEL 03-6748-7198



《本社

日本ポリプロ株式会社
〒100-8251
東京都千代田区丸の内
1-1-1 パレスビル
TEL 03-6748-7190



《富士製作所

MAアルミニウム株式会社
〒105-8546
東京都港区芝2-3-3
JRE芝二丁目大門ビル
TEL 03-3769-0165



《本社

株式会社UACJ
〒100-0004
東京都千代田区大手町
1-7-2 東京サンケイビル
TEL 03-6202-3328





大国主大神とうさぎの像

出雲大社のご祭神は古事記に記されている「因幡の素兎（いなばのしろうさぎ）」の主人公だいく様の愛称で知られる大国主大神で、困っていたうさぎを助けたと言われています。
境内には多くのうさぎの像が設置されており、現在では 66 羽の石像があります。

キャップ春秋 2023 年〈第 25 号〉

発 行 一般社団法人 日本キャップ協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6丁目4番18号 プリンストン赤坂1002号室

TEL 03-6426-5675 FAX 03-6426-5635

発行責任者 中村 幸弓

制 作 電算紙株式会社